

放送を巡る諸課題に関する検討会 衛星放送の未来像に関するWG（第8回）議事要旨

1. 日時

令和2年5月26日（火）15時31分～17時11分

2. 場所

WEB会議形式にて開催

3. 出席者

（1）構成員

伊東主査、石田構成員、榎並構成員、奥構成員、音構成員、久我構成員、近藤構成員、
矢戸構成員、中村構成員

（2）オブザーバー

（一社）衛星放送協会、（一社）日本民間放送連盟、（一社）放送サービス高度化推進協
会、日本放送協会、（一社）電子情報技術産業協会、（一社）日本ケーブルテレビ連盟、
スカパーJ S A T株式会社、（株）放送衛星システム

（3）総務省

吉田情報流通行政局長、吉田大臣官房審議官、湯本情報流通行政局総務課長、豊嶋同局
放送政策課長、塩崎同局放送技術課長、井幡同局地上放送課長、三島同局情報通信作品
振興課長、吉田同局衛星・地域放送課長、水落同課技術企画官、松島同課企画官

4. 議事要旨

（1）開会

（2）受信環境の現状と課題

- ・事務局から、「新4K8K衛星放送の受信環境」（資料8-1）について、説明が行われた。
- ・日本放送協会から、「新4K8K衛星放送の受信設備・受信環境に関する全体状況」（資料8-2）について、説明が行われた。
- ・（一社）放送サービス高度化推進協会（A-P A B）から、「新4K8K衛星放送の現状＜これまでの普及促進への取組みを中心に＞」（資料8-3）について説明が行われた。
- ・スカパーJ S A T株式会社から、「受信環境整備にかかる技術動向と当社取り組みについて」（資料8-4）について、説明が行われた。
- ・（一社）日本ケーブルテレビ連盟から、「ケーブルテレビにおける衛星放送への対応」（資料8-5）について、説明が行われた。

（３）意見交換（構成員等の主な発言は以下のとおり）

【石田構成員】

A－P A Bの資料８－３の説明で、４Ｋ８Ｋの視聴は環境によって様々な設備や機器が必要とのことだが、そのことが消費者に十分理解されているのか。間違って設置してしまったなど、環境に関することも含め苦情などは来ていないか。

【（一社）放送サービス高度化推進協会】

資料８－３の６ページにある「番組ガイドリーフレット」に、視聴にはパラボラアンテナが必要であることを説明している。また７ページにあるように、ホームページで「視聴方法の簡単チェック」サイトを運用し、個別の受信環境をチェックしていくと受信に必要な設備や機器が分かるように紹介している。新４Ｋ８Ｋ衛星放送コールセンターに相談窓口を設けて対応しており、個別の具体的な相談にも応じられる体制を取っているが、苦情をいただいたケースについては聞いていない。

【榎並構成員】

A－P A Bからの資料８－３の３ページのように、４Ｋの視聴可能機器台数が、コロナの影響で多少下がってはいるが順調に伸びている。しかし実際にどれだけの人が視聴しているかが問題である。在宅勤務でテレビを見る機会が増え、４Ｋのコンテンツも見ることがある。ＮＨＫの好番組などもあるが、全体的に４Ｋ放送のコンテンツはＢＳと同じ番組をサイマルで放送しており、ピュア４Ｋのコンテンツは非常に少ない。４Ｋの機器設置台数がこれだけ伸びても、実際に視聴し大したことはないと思う人も多いと思うし、視聴者も少ないのではないか。ピュア４Ｋのコンテンツの充実が求められ、充実することで普及していくと思う。

一方８Ｋは、受信機器が販売されていても高価で、受信環境の整備への投資もネックとなって受信機の普及が進んでいない。コンテンツの充実が進まなければ、受信機器メーカーも普及になかなか努力しない。前回のＷＧでも申し上げたが、８Ｋの受信機器の普及には、高画質な映像が見られるだけではなく、ネットと結合した新しい機能を導入したサービスなどが重要ではないか。

【奥構成員】

自宅の戸建ての視聴環境を４Ｋ左旋まで受信できるよう整備し楽しんでいる。一視聴者としては、昨年のラグビーワールドカップを含め、４Ｋを自宅で視聴できることは相当な技術革新であり、視聴環境が整えば非常に楽しめるものだと感じた。ただ先ほどＡ－P A Bから、ピュア４Ｋ比率が２０％以上と説明があったが、明らかにＮＨＫが誘引しており、民放は広告放送ということもあって２Ｋと４Ｋはほぼサイマルになっており、基本は２Ｋ製作のものをアップコンバートして４Ｋを放送している。その意味で、資料８－２の２ページに「ＢＳ４Ｋと２Ｋ波一体制作番組の同時放送を拡充させ、４Ｋの魅力にふれる機会を増やし、普及を目指す」とあるように、ＮＨＫと同様に４Ｋ制作のものを２Ｋにダウンコンバートする方向

にもっていただきたい。特にオリンピックが来年に延期になり、ピュア4Kのドライバーが見当たらないのが気になっているのが1点目である

2点目は、マンション共聴についてである。戸建てなら自らの意志で受信環境を整備できるが、マンションでは管理組合という大きな壁があり、現在のマンションのケーブル事業者の放送方式が、パススルー方式なのかトラモジ方式なのかを理解する必要がある。各世帯の受信環境も、4K対応テレビではあるが対応チューナーが無い世帯や、あるいはフルスペックの4Kチューナー内蔵テレビを持っているがセットトップボックス経由でしか受信できない世帯など、各家庭の受信機と受信方式の組み合わせが様々でどのような環境を整備すべきかが異なっている。こうした状況に対し、きめ細かく分かりやすく説明する資料の整備と、制度やコスト面でのサポートを検討すべきである。

【音構成員】

受信環境について理解しているつもりであったが、本日の皆様のプレゼンテーションを聞いて個々の環境に合わせた受信環境の整備は大変だと改めて感じた。資料8-3にあるように、4K8Kの広報活動を様々行われていることは十分承知している。しかし、個々の環境に合わせ、もう少し簡単に4Kの設置について確認できないかと思う。私は4Kコンテンツのアワードの審査などに関わり、このところ4Kコンテンツのクオリティが高くなってきていると承知している。しかし構成員の方々のご指摘のようにピュア比率はまだまだアップしなくてはいけない。ピュア比率が高まり4Kコンテンツに魅力を感じ、実際にアクセスしようとしたとき、自分の家の受信環境の制約などで躊躇し気持ちが折れないよう、分かりやすい誘導、案内を関係者の方々が協力し作っていくことが重要である。

【久我構成員】

本日の皆様のプレゼンで、受信環境の全体像について理解でき大変感謝している。皆様がおっしゃるように4K8Kの普及には障壁があり、今後、既に行われている周知や改修物件への働きかけなど、地道な作業になっていくと思う。一方で今、普及させるタイミングとしては割と良い状況にある。緊急事態宣言は解除されたが、しばらくは家の中で生活を楽しむ、家の中のものにお金をかける巣籠もり型の消費行動が続くので、タイミングとしては良い。ただコンテンツの面で、ネットのサブスク動画配信系が充実しているだけに、放送環境は厳しい状況にある。

しかし弊社の調査を見ると活路もあるという印象である。弊社で3月上旬に20代から50代の生活者6,000名に対し、外出自粛によって増えた行動について複数選択で調査したが、1位が圧倒的にテレビの視聴で5割以上、2位はネットサーフィンで4割、3位は動画配信で3割弱、あとは睡眠などだった。20代でも順位は同様だが、上位のテレビとネットサーフィンと動画配信の選択割合は僅差であった。調査時期は新型コロナの脅威への不安が一気に高まり、リアルタイムの情報収集ニーズが非常に強く、テレビやネットサーフィンが上位に来ている面がある。裏を返すと何かを猛烈に知りたい、すごく興味があるイベントが発生し、しかもリアルタイムでとなると、現在のところ若い方でもネットや動画よりも実はテ

レビの需要が強い傾向が見える。したがって、ネガティブなテーマであってもオリンピックのようなポジティブなテーマであっても、リアルタイムでそこでしか見えないというのは一つの大きなポイントである。

この点を生かすには、いかにターゲット層の情報の流れに入って魅力を普及できるか、例えばSNSアカウントを開設してPR動画を流すとか、電車内のCM動画など、いずれにしろ潜在層、顕在化していないニーズへのアプローチが効果的だと思う。

【近藤構成員】

私は、横浜の640世帯の団地の管理組合理事長と、香川県の夫の親を見取った後、毎月香川に通い2つの家を管理している。周囲には私のような介護のため2つ以上の家を管理する主婦が増えている。香川でテレビが映らなくなり、室内アンテナを購入して設置を試みたが設置場所や角度の調整が難しく断念した。業者に頼み、使っていなかった衛星アンテナから分配するブースターも購入し、BS放送が視聴できるよう工事してもらったが、工事費が高額となり業者は恐縮していた。BS放送を楽しんでいるが、左旋対応などについては今後確認するつもりである。

BS受信契約は香川では横浜の別荘のように扱うような手続きが必要のようだが、デジタルの苦手な人も簡単に手続きできるようにアナウンスするよう、NHKにお願いしたい。

【穴戸構成員】

2点質問と1点コメントがある。1点目はNHKに対してだが、資料8-2の1ページに「先導的役割を果たす」とあるが、4K8Kあるいは左旋について、今までNHKがどのように先導的役割を果たそうとしてきたのか、本日の報告では分かりにくかったので簡潔にご教示いただきたい。2点目は、A-PABの説明で、世帯が置かれている物理的環境を主眼に、普及の度合いや障害について把握されていると受け止めた。世帯の経済的事情あるいは地域差や世帯構成によっても4Kの普及の度合いの違いを分析されているか、それに対応した普及戦略を考えているかについてご教示いただきたい。

3点目はコメントだが、既に構成員の皆様から発言があったように、普及の観点からピュア4Kのコンテンツが増えることが大事だと思う。eスポーツや新しい高度なデジタル時代の様々な世代に向けた教育コンテンツもあるし、現在のコロナの状況下で様々なクリエイターが打撃を受けている状況で、どうやって日本の文化や芸術を支えていくかを考えたときに、衛星波の持つ強みはあると思う。そういうことについて様々なステイクホルダー、あるいは文化行政との連携も考えられると思う。

【中村構成員】

何点かコメントを述べたい。1点は、都市部の受信環境は色々選択肢が用意され、特に課題といえばフレッツテレビを含めてFTHで送る方式の普及に関して、ブロードバンドとセットで普及させられる工夫があるといいと思う。もう1点は、難視聴対策の共聴ケーブルの扱いは公的支援をしっかりと入れていかないと難しいと思う。最後1点は、私も60インチ4

Kテレビで楽しんでいるが、4Kコンテンツのありがたみは、間にこたつ1個ぐらいの距離まで近よって見ないと体験できない。ゲーマーの方は同様の視聴スタイルで、机の上に40インチ4Kを置いて50センチぐらいの距離で見ている。最近では在宅勤務のお父さんが勤務しながら時々テレビを楽しむ視聴スタイルがある。そうした視聴スタイルと、そこにどのような魅力的なコンテンツを取り入れるかを調査した上で、どのような受信環境を整備すればいいかという考え方があるといいと思う。

【伊東主査】

一通り、各構成員からご意見をいただいた。先ほど宍戸構成員より、NHKとA-PABに対して質問があったが、まず、NHKが果たしてきた、あるいは果たそうとしている先導的役割について、NHKからお答えいただきたい。

【日本放送協会】

先導的役割ということでは、番組の充実について4Kでも8Kでもピュア比率を高めた状態で放送している。特に8Kについては、システムや機器の開発についてNHKが先導的に役割を果たしてこられたと考えている。受信環境の整備については、総務省やA-PABなどと連携しながら、住宅業界や受信の工事業者、電気店への説明会や講習会などで対応してきたし、これからもしっかりと努めていきたい。

【伊東主査】

次にA-PABから、世帯の現状に則した4Kの普及状況に関する調査データなどがあればお答えいただきたい。

【(一社)放送サービス高度化推進協会】

A-PABではこれまで8回、WEB調査を全国47都道府県5,000人を対象に行ってきた。4K8Kの普及がまだ少ない現状では分析しにくい事情もあり、ご質問の世帯の経済状況あるいは地域差や世帯構成にまで踏み込んだ分析はしていない。今後も引き続き調査を行うが、ご指摘のような観点を反映できればと考えている。

【伊東主査】

これまで関係者の御意見をいただき、衛星放送についてバラ色の未来像を描くのは難しいところもあるが、そこに光をもたらすとすれば、まずは、特にピュア4K番組の普及と拡充が必要であると感じた。事務局においては、各構成員の御意見を受け、今後の運営等に反映していただきたい。

(4) 閉会

以上